

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 1 日

事業所名 コペルプラス富田教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	②	職員の配置数は適切である	7			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		完全なバリアフリーではないが状況に応じて危険がない様に配慮している。	トイレに関しては身障者トイレにはなっていない。 (構成上、改善は難しい)
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		定期的エアコンフィルター、空気清浄機のフィルター等の清掃も行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		業務改善のためのミーティングもきちんと行われている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		保護者の方が意見を言いやすい雰囲気を作っている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		ホームページやLINEでのお知らせ、紙媒体での教室だよりとしてお伝えしている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	第三者による外部評価は実施していないが、常に風通しのいい事業所を志し、相談支援専門員や他事業所	(第三者評価実施なし)

				からも多くの見学者を招いている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	コペルプラスの研修（フォローアップ）も定期定にあり、個人的にも指導員は研修に意欲的である。市が主催の無料のオンラインセミナーには積極的に参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	アセスメント療育、保護者面談実施の上、カンファレンス会議にて支援の方向性を決定し、計画を作成し、納得の上、同意していただいている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	発達段階観察シートを使用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	発達支援、家族支援についてはお子さんの家庭や園での様子を伺いながら、日々の療育に活かすようにしている。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	課題や本人及び家族のニーズを十分把握した上で支援にあたり、利用日ごとに細かく振り返り（記録等）を実施している。	

	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		基本の活動プログラムは本部が作成している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		利用日ごと、月ごとに異なる内容（教材の変更）で支援実施。 指導員によって掲示の仕方を工夫している。 保護者様と相談しながら、成長に合わせた支援や個別課題を取り入れている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7		個別指導中心に、状況に応じて集団活動を組み合わせ多くの他児との関りの場を設けている。また保護者一人一人のニーズに合った適切な組み合わせを実施している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼を必ず実施し、利用者別の特記事項や当日の業務内容等を毎朝確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		支援終了後の打ち合わせはないが、ケア記録として書面で残して共有している。また、緊急性がある内容については支援後	

					に共有するなど柔軟に対応している。	
	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		記録業務を行なう時間を設け、書面とデータで保管し、常に見返せる状態にしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		児発管、指導員とで時間を作り、活発にモニタリングが行われている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		対面での会議も徐々に再開されており児発管が中心に会議に出席している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		7		(該当児童なし)
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		7		(該当児童なし)
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		保育所、幼稚園の見学へ行き、児童の様子を観察し、先生方からの意見を聞き、支援する上での参考にしている。また、見学後保護者へのフィードバックも行なっている。 保育所、幼稚園	

					からも、コペルプラスの療育をよく見学に来て下さる。その際にも支援内容やその他必要な情報共有と相互理解を図っている。	
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		利用児からの希望はないが、可能な限りの一方通行ではあるが情報提供は行っている。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		高槻市の児童部会に参画し、研修へ定期的に参加している。	
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7		保育園や幼稚園に所属している利用児が多いため、事業所としての活動の機会の設定はなし。	

	②9	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	2		現状では参加していない。 →受け入れの体制などを調べ、参加の有無などを今後検討していきたいが市制としても簡単に自立支援協議会に参画できるシステムにはなっていない。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			日々の療育ごとに振り返りをして成長を確認、課題を共有出来るようにしている。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7			昨年度より毎月定期的にペアレントトレーニングを実施し

				ており、多くの保護者様に参加してもらっている。	
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	契約時に必ず丁寧に時間をかけて行うようにしている。 契約を終えると不明点がないか必ず伺い、保護者様の理解度を確認するよう心がけている。	
	㉑	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	計画作成時（新規更新）に、ニーズや特性を踏まえた上での支援内容を説明し、書面にて同意をいただき複写を家族にも提供している。デジタルサインにも対応している。	
	㉒	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	支援計画の見直し時にフィードバックを実施。希望者には都度相談を受ける場と時間を設けている。 昨年度より年2度の個人懇談週間を設け、適切に必要な助言と支援を行っている。	
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	定期的に保護者会も実施している。（四回実施済）	

③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談内容によっては事業所内で会議を実施し、フィードバックとして丁寧に対応している。その内容を踏まえ、次回の療育にも生かせるようになっている。 相談、苦情対応の窓口を設置し児童発達支援管理責任者が責任者となっている。	
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		LINE や掲示板での予定、ホームページにてブログの発信や連絡をこまめに発信している。教室よりも作成し教室内にファイルとして設置し自由に保護者が閲覧できるようにしている。	
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	7		書庫、デスクの施錠、ビル警備会社（セコム）、記録ソフト、PC ウイルスソフト等で情報を守っている。	
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3		プライバシーの観点よりで地域住民を招待することは難しいが、利用者さんのご家族など幅広く来所して頂いている。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		各マニュアルの策定やLINE等で周知、訓練も2回、火災と巨大地震想定で避難訓練を実施した。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		色々な災害を想定した訓練を実施した。また、避難訓練では2階から避難はしごを使用した訓練も実施。またLINEでも定期的に避難経路については周知している。今年度も水消火器による消火訓練も実施した。また子供向け避難訓練動画も視聴してもらい災害への意識付けも行った。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		利用開始時+年一回アセスメントシート（基本情報）の記入を依頼し把握している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		食事の提供はないので該当事業所ではないが、アレルギーの確認はアセスメントなどで必ず伺うようにしている。	

④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		事故や災害につながる要因を特定し対策する貴重な機会であるため、多くの場面で作成し事業所内で共有と検討を行っている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		本部主導で職員向けの研修を行っている。府主催の虐待防止研修に参加し伝達研修も実施済み。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		契約の時に保護者様に丁寧に説明を行っている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。